

# アグリ | ワーク | ポイント



果樹林産センター 鈴木大造

## 次年度への準備をはじめましょう

青島温州の出荷が本格的に始まりました。収穫終了時から次年度の栽培も始まるので、出荷作業とともに、園地管理も怠らないようにしましょう。

### 貯蔵管理

貯蔵に最適な環境は、入庫量1坪当たり1t、庫内温度5℃、湿度85%です。温度が低いと低温障害が発生し、温度が高いと浮皮果・腐敗果が増えます。貯蔵庫内の点検を1か月に2回行い、腐敗果を除去しましょう。浮皮の程度によって貯蔵期間が違いますので、健全果・浮皮軽度・浮皮中度のように、程度別に貯蔵しましょう。

浮皮の程度	貯蔵可能な期間
なし	2か月
軽度	1～2か月
中程度以上	1か月

### 樹勢回復

収穫後、樹勢回復や花芽分化の充実を図るために、尿素500倍を1週間間隔で2～3回散布してください。マルチ栽培園地では、シート除去後にかん水し、葉面散布を3月まで3回以上実施しましょう。

秋肥は、基準量の半分を収穫後に施肥し、残りを4月下旬～5月に施用します。

### 寒害対策

冷気が停滞しやすい場所や風が当たりやすい場所は、寒冷紗やコモで樹を覆い、寒害対策をしてください。また、敷きワラなどを土に被せて乾燥防止に努めましょう。

### 中晩柑の収穫

1月に入ると中晩柑類も収穫時期となります。増糖や減酸を考えるとなるべく樹にさらしておきたいですが、低温にさらされると凍害の発生が懸念されます。寒波が予想される場合は、早めに収穫してください。

### 病害虫防除

近年、カイガラムシ類が増加傾向にあるので、マシン油乳剤を散布しましょう。マシン油乳剤は、直接害虫にかからないと効果がないので、散布ムラや散布直後の降雨は、効果が減退してしまいます。散布後5日間は、晴天が続くことを確認してから散布しましょう。また、剪定後の3月に散布するのも効果的です。

品種名	収穫時期	出荷時期
はるみ	12/下～1/下	2/上～
甘夏	1/中～3/上	3/上～
不知火	2/上～2/下	3/上～
せとか	2/上～2/下	2/下～3/下

### 1月上～中旬

・カイガラムシ類、ハダニ類  
マシン油乳剤(97%) 60倍